

# 障害者の生涯学習推進 に関するセミナー

---

津田英二（神戸大学）

# 今日のセミナーへの参加者の期待

(障害者の生涯学習に関わった経験のない方)

- 障害のある方にどのような生涯学習の機会を提供することができるのか参考にしたい
- 障害者の生涯学習担当として学ぶ必要を感じたため
- 現在担当している不登校、中退者、ニートなど、問題を抱える青少年の学習支援の課題と、障害者の学習支援と大いに関係すると関係しているため

# 「障害者の生涯学習推進」って何？

---

- 「生涯学習」って何？
- 「推進」って誰がするの？
- なぜ「障害者の」ってわざわざ限定するの？
  - 今日の登壇者それぞれに、後で聞いてみましょう。

# 生涯学習って何？

---

## よくある「生涯学習」の説明

- 学びは学校でするものだ、子どもがするものだ、という固定観念をこわしましょう



- いろんな学習資源をつなぎあわせて、みんなが手軽に学べるような環境をつくりましょう

# なんで生涯学習が必要なの？

---

## 国連が生涯学習を重視する観点の変化

### 1960年代

「世の中の変化が激しいから、人間は学び続けないとまずいよね」

### 1970年代以降

「世の中に問題が多すぎる。みんなで学んで一緒に問題を解決しようよ」

# どんなことを生涯学習っていうの？

---

- 学校段階で学んだ内容の継続・再学習に関する活動
- 余暇・レクリエーション活動
- 文化芸術活動
- 健康の維持・増進、スポーツ活動
- 個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習
- 仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習
- 一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高められる人間関係に関する学習

(「学校卒業後の学習活動に関する障がい当事者アンケート調査」質問項目)

# 生涯学習の多様性について

---

- 学びのスタイルは多様であること

学校 = 制度化されちゃってる教育 (フォーマル教育)

意識的な学びに焦点がある非(半)制度的な教育 (ノンフォーマル教育)

行為の中にある学びに焦点がある活動 (インフォーマル教育)

- 学びの意味づけも多様であること

「学習者の社会への適応」

「民主主義社会の形成者の育成」

「学んだことの社会還元」

# さまざまな「推進者」

---

## ■ 市民

親などの近親者  
専門家でもある市民（例えば退職教員）  
学生  
自治会や市民団体  
その他さまざまな市民

## ■ 民間の事業者

社会福祉の事業者  
民間学習産業の関係者  
企業

## ■ 行政

社会教育行政  
文化行政  
社会体育行政  
社会福祉行政  
労働行政

公民館  
生涯学習センター  
体育館  
図書館  
博物館  
学校開放

など



# さまざまな「推進者」の役割

## 直接的な推進者

学習プログラムをつくる  
場所を確保する  
学習者をサポートする  
学習プログラムを運営する  
学習者や支援者を募り組織化する  
など

## 間接的な推進者

条件整備をする（ひと、かね、もの、場所、情報……）  
専門的な助言をする  
「推進者」のネットワークをつくる  
障害者の生涯学習についての理解を広める  
など

# 今日の事例を聞くポイント

---

- 何にこだわっている実践なのかな？
- どのような成果を期待している実践かな？
- どのような組織・体制によって成り立っているのかな？
- どんな人たちが実践をつくりあげているのかな？
- どのようなところに実践的な課題があるのかな？